

事業実績書

団体名	白石地区地域づくり協議会
-----	--------------

1 地域づくりの活動方針(テーマ)

みんなでつくる住みよいまち・白石

2 今年度、重点的に取組んだ視点(事業)

①	視点	地区住民同士の話し合いの機会を設け、地域づくりに関わる地区住民の増加を図る。とりわけ、将来を担う子育て世代等若い人(現役世代)の参加を促進する。		
	事業名	地域づくり活動参加促進	決算額	338,060円
②	視点	地区住民同士やSL乗客等他地区住民との交流促進を図るため「SLやまぐち号」の停車駅であるJR山口駅において「やまぐちえき」応援おもてなしイベントを開催する。		
	事業名	「やまぐちえき」応援イベント	決算額	188,834円
③	視点	子どもからお年寄りまで家族ぐるみで参加していただき、地域の伝統文化に触れる事により、郷土愛を育み、以って地域住民の連帯感や絆を深める。		
	事業名	ふるさとまつり参加促進事業	決算額	373,722円

3 今年度の重点的視点(事業)に対する評価

検証(成果、来年度以降への改善点等)		自己評価
①専門部会や実行委員会を開催し、地区住民同士の話し合いの機会を設け、地域づくりに関わる地区住民の増加を図った。 理事等役員と白石小中PTA等子育て世代(現役世代)が交流する機会を増やすことで、より幅広い協力体制が構築できた。 今後も地域づくり活動への参加意識の喚起・触発等啓発活動を推進し、地域づくりに関わる地域住民の増加を図っていく。更に、商店街、市民活動団体等との連携を強化しつつ、子育て世代等現役世代や10代の参加を促進しながら、地域活動を進める。		○
②山口駅においてSL・DLおもてなしイベント活動、JR山口駅ロータリーの環境美化活動、写真展「ご当地自慢スポット in 山口」、山口駅周辺において観光ボランティア「てくてくウォーキング」を実施した。 おもてなしイベントは、5月(ファーストラン)・8月・12月に実施した。おもてなしイベント来場者の中には広報誌やSNSを見て来られる方々が増えた。今後も広報誌やSNS等を活用し、参加促進へつながるよう期待する。 今後も、おもてなしイベントの実施、JR山口駅ロータリーの環境美化活動、写真展の開催、観光ボランティアを継続し、白石地区および近隣地域の魅力を発信する本事業を深化させ、地域内はもとより他地域交流の礎としたい。		○
③【はたるまつり】 実行委員会メンバー他有志で、クリエイティブ・スペース赤れんが前広場において無料休憩所の設営・運営及び交通警備を行った。総勢33名の参加があった。 【祇園祭】 お神輿担ぎ手91名、直会79名の参加があった。食推の皆さん(延べ15名)が、お神輿担ぎ手のために「力むすび」等を手造りした。総勢185名の参加があった。 【山口七夕ちょうちんまつり】 8月6日の願事短冊の飾付に児童等152名の参加があった。一の坂川西京橋から千歳橋までの両岸においてミニちょうちんツリーを設置(飾り付け・点灯)に白石小・中PTA&生徒・JR実行委員会等187名の参加があった。総勢339名の参加があった。 今後については、より多くの地域住民(とりわけ子育て世代と子どもたち)が参加してもらえるような、より楽しい企画を検討し、実施する。		○

4 総括

今年度は、交付金の活用によって、専門部会、実行委員会等を中心とした地域課題の解決に向けた取組みが進んだ。
今後については第4次地域づくり計画に基づいて、地域課題を解決するための手段としての事業を企画し(P)、地域住民が主体となって遂行し(D)、事業結果(効果)を検証し(C)、改善する(A)ために、地区住民同士が自由に話し合える場づくりに重点的に取り組む。

5 事業内容

(1)協議会運営

事業費	5, 668, 128円
事務局の 運営体制	(事務員等の雇用人数) 事務局長:2名(交代)、 事務職員:3名 (運営費の主な内容) 事務局人件費、事務費 (成果・評価) 新会計管理システムの運用により、適正な資金管理(財務会計業務)ができた。 (今後に向けて) ムダ・ムリ・ムラを無くし、効率の上がる適切かつ円滑な事務運営に努める。

(2)地域振興

事業名	地域づくり活動参加促進
事業費	338, 060円
事業概要	(実施内容) 地域課題の解決に向けて、専門部会、実行委員会等運営態勢を構築する。 (実施時期) 通年 (参加人数) 136人 (成果) 各専門部会等の運営に関わる人たちの参加意識の向上が図れた一方、理事等役員との交流により、協力体制が構築できた。 (評価) 今年度における専門部会の出席率が81%となり、昨年(84%)と比較して3%減少した。 また、参加人数が136名となり、昨年と比較して21名(18%)増加した。 (今後に向けて) 地域の将来像や地域課題解決のために実施する事業の情報を地域住民同士が共有し、地域活動が積極的に展開されるよう、地域づくり活動に参加する地域住民、とりわけ地縁者の増加促進を図る。 また、地域づくりに関わる啓発研修会や自由な意見交換会等を開催するなど啓発活動に取組む。

事業名	広報事業
事業費	940, 437円
事業概要	(実施内容) 広報誌配布、公式ウェブサイト運営、SNS投稿(Facebook・Instagram) (実施時期) 通年 (参加人数) 6人 (成果) 広報誌:全戸配布11回、公式ウェブサイト:12回更新(他SNSの更新は、随時トップページに表示)、SNS:年間210回以上投稿(ストーリーズ・リールを含む)(月平均約18回) Instagramフォロワー数157名→259名(100名以上増加) (評価) 広報誌を毎月発行、公式ウェブサイトを適宜更新、SNSを活用した情報発信により、各事業の開催案内や結果報告等の周知を図ることができた。 (今後に向けて) 次年度も、引き続き広報誌の毎月全戸配布、公式ウェブサイト等を適宜更新し、情報発信チャネルを強化する。今後もSNSを活用したタイムリーな情報提供を行い、地域住民の方々へ活動状況を発信する。

事業名	第4次地域づくり計画策定
事業費	170, 132円
事業概要	(実施内容) 令和7年度の第4次地域づくり計画策定にむけた住民アンケート作成 (実施時期) 令和6年11月～令和7年3月の第1木曜(1月は第2木曜) (参加人数) 23人(策定委員メンバー14人) (成果) 令和7年度に予定している第4次地域づくり計画策定にむけて、年度初めよりスムーズに計画策定が進むように、前年度にあたる令和6年度に住民アンケート作成作業を行った。 (評価) 予定していた住民アンケートの作成作業ができた。また、作業を通じて策定委員の交流も図ることができた。 (今後に向けて) 次年度から本格的に始まる第4次地域づくり計画策定にむけ、「住みよいまち白石」の実現に向け取り組んでいく。

事業名	小中学校交流イベント「逃走中」
事業費	93, 788円
事業概要	(実施内容) おやじの会の会員や中学生ボランティアがハンター(鬼)に扮し、本気で児童を追いかけるいわゆる鬼ごっこを実施した。本来ならば、12月21日に実施予定であったが、インフルエンザの蔓延、天気不順が重なり、2月22日に延期し、実施した。 (実施時期) 令和7年2月 (参加人数) 163人 (成果) 当日は、児童153名、ボランティア中学生10名が参加し、風雪厳しい天候の中、元気いっぱいグラウンドを駆け回っていた。 (評価) 延期の影響で、参加申込も30名程度減少、中学生ボランティアもテスト期間と重なり半減したことが残念であったが、白石小、中学校の垣根を越えて附属小、中学校の生徒の参加もあった。 (今後に向けて) この事業の認知度をあげて参加者を募り、より一層地域の絆が深まるきっかけづくりとなることを目標に頑張っていきたい。

事業名	「やまぐちえき」応援イベント
事業費	188, 834円
事業概要	(実施内容) JR山口駅ホームにおいてSLやまぐち号おもてなしイベント開催。JR山口駅ロータリーの環境美化活動。市内観光「てくてくウォーキング」開催。JR山口駅構内待合室において白石地区の魅力を発信するための写真展開催。 (実施時期) 令和6年5月、6月、8月、10月、11月、12月 (参加人数) 16人(実行委員会メンバー)・支援者6名 (成果) 2年振りのSLやまぐち号・DLやまぐち号・クリスマス号のおもてなしイベント、ご当地写真展、観光ボランティア「てくてくウォーキング」等を開催し、利用者や近隣住民の皆さんへ白石地域の魅力を発信した。実行委員や支援者の地域活動における協力体制への意識が高くなり、自発的に行動できるようになった。 (評価) JR山口駅待合室での『ご当地写真展』では、駅利用者等の皆さんへ「ちょうちん祭り」等の伝統文化や白石地区および近隣地域の魅力を発信することができた。 白石歴史探訪の会とコラボ開催である観光ボランティア「てくてくウォーキング」では、参加者との交流を深めることができた。 (今後に向けて) 今後も継続してJR山口駅のおもてなしイベントの実施、ご当地写真展の開催、駅前ロータリー清掃を実施する。 また、6・10月の観光ボランティア「てくてくウォーキング」については、来年度も白石歴史探訪の会とコラボして実施したい。 白石地区および近隣地域の魅力を発信する本事業を深化させ、地域内はもとより他地域交流の礎としたい。

事業名	白石フェスティバル開催支援(プロジェクト事業)
事業費	0円
事業概要	(実施内容) 子どもからお年寄りまで多くの地区住民の参加による親睦イベントとして開催。 (実施時期) 11月17日 (参加人数) 約4,000人 (成果) 白石中学校とスポーツ協会が連携し、新たなブースを展開した。これにより、地域の若い世代が主体的にイベントに関わり、フェスティバルの魅力を一層高めることができた。 (評価) 地区内の小中学生がボランティアとして参加し、運営の一翼を担ったことも特筆すべき成果である。さらに各地域団体も合わせ、地域一丸となってイベントを盛り上げることができた。 (今後に向けて) より多くの地域住民が積極的に参加できる仕組みを検討し、さらなる交流の活性化を図りたい。

事業名	白石地区町内親睦大運動会開催支援(プロジェクト事業)
事業費	0円
事業概要	(実施場所) 白石小学校グラウンド (実施時期) 5月19日 (参加人数) 約500人 (成果) 関心を引く広告、参加したくなるプログラム作りをし、少人数化や年齢・性別の緩和、気軽に参加できる種目の充実もあり参加者増に繋げることができた。 (評価) 自治会対抗競技にオープン参加枠を増やしたことにより自治会参加減に歯止めをかけた。参加自治会以外からの参加者が増えた。フリーテントの利用により観戦数も増えた。 (今後に向けて) 終了時間が予定より1.5時間長引いた。運営方法の見直し、イレギュラー対応策の明確化、種目数の見直しをしたい。子どもから高齢者まで参加可能な種目の導入をしたい。

事業名	町内会親睦活動支援
事業費	150,000円
事業概要	(実施内容) ヴェルテ白石町内会「納涼夏祭り」・西惣太夫町内会「小さな夏祭り」 今市自治会「福部童子祭」・今道・大附自治会「5自治会合同サマーフェスティバル」 荒高自治会「もりさま祭り」 (実施時期) 令和6年8月3日・8月24日・8月25～26日・8月17日・9月7日 (参加人数) 延853人 (成果) 【納涼夏祭り】例年以上に参加者が多かった。食材も美味しい物が揃い、大好評であった。 【小さな夏祭り】おやじの会員の若い世代が増加して、母親同士の交流を深めることができた。三世代交流とまではいかなかったが、若年層世代の交流を図れた。 【福部童子祭】幼児を含む子供達や親と地域住民とのコミュニケーションがとれた。 【5自治会合同サマーフェスティバル】催し物として綿菓子を追加したほか、モグラたたきゲームと段ボール迷路を実施した結果、共に大好評だった。キッチンカーを招聘する事により、参加者を呼び込むネタとしては良かった。来年も新たな催し物を企画したい。 【もりさま祭り】子供向けのゲームコーナーを充実させることにより、自治会内、周辺住民の方々に多くの参加をいただいた。 (評価) 【納涼夏祭り】参加した全員が笑顔になるイベントであった。回を重ねる毎にパワーアップを感じられた。 【小さな夏祭り】開催当日の天候に翻弄されたが、例年通りの時間帯で終了した。例年より気温が高かった為、高齢者の参加が少なかった。駅前通り周辺の会員参加がかなり減った。 【福部童子祭】地域の年齢差がある子供達と一緒に遊んだりできる貴重な場である。 【5自治会合同サマーフェスティバル】どう継承していくかが課題だったが、実行委員会メンバー間で協力し、トラブルなく終えることができた為、新体制に移行できた。 【もりさま祭り】白石地区スポーツ協会・白石中学校PTA・山口大学、県立大学の学生ボランティア・白石地区消防団のご協力をいただいた。 (今後に向けて) 今後については高齢化が進む中、役員の負担軽減、他団体の協力をいただきながら、伝統ある祭りを継続をしていきたい。

事業名	ふるさとまつり参加促進事業
事業費	373, 722円
事業概要	(実施内容) 【ほたるまつり】は無料休憩所の設営・運営および交通警備を行った。 【祇園祭】は御神幸・御還幸のお神輿担ぎ募集・直会を開催した。 【ちょうちんまつり】は、ステージは設置せずに、ほたる広場では白石カフェのみを行った。 8月6日に白石小・中PTAを中心に、ミニちょうちんツリー点灯・願い事短冊の飾付を実施した。 (実施時期) 令和6年6月1日・令和6年7月20日・27日・令和6年8月6日・7日 (参加人数) 557人(スタッフ等協力者延人数) (成果) 【ほたるまつり】 参加者33人 【祇園祭】 参加者185人 【山口七夕ちょうちんまつり】 参加者339人 白石小学校・白石中学校のPTA関係者の多くの協力を得た。 (評価) 事前に会議を行い、最終確認をしたことから、事前準備、お祭り、片付けまで円滑に実施できた。 (今後に向けて) 伝統文化活動を通じて、子どもからお年寄りまでの三世代間の交流を促進する。とりわけ、自治会連合会を通じて、各単位自治会から最低1名程度の参加を実現したい。

(3)地域福祉

事業名	チャレンジ健康づくり
事業費	79, 133円
事業概要	(実施内容) ACP/Nスポーツを中心に計画10回中、9回実施した。各回中学生ボランティアの応援を受け、子ども中心のACPを行い、終了後の希望者によるニュースポーツ教室を実施した。従来型講座形式での活動は、「アンチエイジング」を主に平行して「転倒防止」をテーマとして全6回で計画、1回中止、計5回実施した。 (実施時期) 令和6年8月、9月、10月、11月、12月(中止)、令和7年1月 (参加人数) 620人(スタッフ延人数) (成果) 今年度は、ACPを中心に行い、延485人の参加があった。ニュースポーツは、クップをメインにラダーゲッターを加えて、園児から高齢者と幅広い参加を頂き、楽しく運動して有意義な時間を共有頂けた。 従来型講座形式での活動は、全6回で計画、1回中止、計5回実施し、延べ135人参加され、今回事前の関心が高かった白石初の「ラジオ体操講座」が中止となったものの昨年より参加者数が23%増加した。 (評価) ACPを中心とした活動の中で、ボランティアスタッフとして白中、附属中学生徒に参画頂き、学校の枠を超えたボランティア交流が生まれた。また従来型講座形式での活動も、新規参加者が増えて、充実した活動ができた。 (今後に向けて) 更により多くの方に参加いただくため、より健康志向、健康寿命の延伸をテーマに企画していきたい。

事業名	健康食のおススメ
事業費	53, 256円
事業概要	(実施内容) 生活習慣病予防に役立つ食生活の習得を目的とした「男性料理教室」や、カルシウム摂取に特化した「生涯骨太クッキング」を実施した。山口祇園祭では、白石地区の神輿担ぎ手に手づくりおむすびを提供した。チャレンジ健康づくり最終回に健康食弁当を作り提供した。広報誌にカルシウムが摂取できる等のレシピを3回掲載した。 (実施時期) 令和6年5月、7月、9月、10月、令和7年1月、2月 (参加人数) 25人 (成果) 「男性料理教室」では食事のバランス改善を考えると共に、“食事を作る楽しさ”を感じてもらうことができた。「生涯骨太クッキング」では、保健師からカルシウムについて講義があり、その後調理を行うことでより一層“食”を通しての健康づくりに意識が高まった。 (評価) 広報誌へのレシピ掲載、料理教室の開催等により、適正な塩分量や美味しくカルシウムを摂取できる料理の提案を行い、食育の大切さおよび食への関心を高める活動になった。 (今後に向けて) 来年度も、病気予防(健康維持)に役立つ様々な料理教室や、広報誌に健康食レシピを掲載するなど、幅広い活動を行う。 また、広報誌だけでなく口コミによる料理教室等の開催情報の周知に努め、参加者の増加を図りたい。 今後も「チャレンジ健康づくり実行委員会」と協働で健康食弁当を提案する。 より多くの地域住民の“食”に対する意識を高められる様、今まで以上に“食”を通じた健康づくりを地域の皆様に伝えていきたい。

事業名	グラウンドゴルフ参加促進
事業費	57, 490円
事業概要	(実施内容) グラウンドゴルフ大会を開催。 (実施時期) 令和6年6月、10月(雨天の為、中止)、11月 (参加人数) 40人(実行委員会メンバー23人) (成果) 今年度は、春季、秋季(雨天の為、中止)、地域づくり協議会会長杯の2大会を開催した。準備、運営はグラウンドゴルフ実行委員会が中心となって実施した。 (評価) 今年度は実行委員会の新規会員数が1名増加した。 (今後に向けて) 今年度参加がなかった、初心者向けの講習会、親子交流戦を来年度は内容を充実させて参加者増に繋げていきたい。今後も練習会を毎週月曜日・水曜日・金曜日、月例大会を毎月第3水曜日に実施し、交流を図ってきたい。大会結果報告を広報誌に掲載継続する。

事業名	むかし遊び
事業費	2, 972円
事業概要	(実施内容) 白石小学校と連携して、新入生(1年生)を対象として実施。 (実施時期) 11月14日(木) (参加人数) 33人(実行委員会メンバー9人) (成果) 過去の参加者に案内ハガキを送付、また民生・児童委員や部会員・白石小PTAから声掛けをした。39名の参加者があった。 高齢者と1年生の楽しく充実した交流が図れた。 昨年より時間配分等考慮して、計6種目で行った。 (評価) 福祉部会員、民生児童委員、近隣住民、白石小PTA、そして白石小学校の先生の協力があり、スムーズに運営できた。子ども達も全部の種目で楽しそうに遊ぶ様子が見られた。 (今後に向けて) 来年度はお茶休憩をはさむ等、時間や人員配置を見直して、より円滑に運営したい。また、より多くの方に参加してもらえるよう、広報誌で募集や過去に参加された方々へのお知らせを継続し、またその方々に対し知人等に参加を働きかけていただけるよう依頼する。

(4)安全・安心

事業名	危険防止看板設置等
事業費	0円
事業概要	(実施内容) — (実施時期) — (参加人数) — (成果) 申請事案がなかった。 (評価) — (今後に向けて) 子どもの交通事故等の危険箇所注意を呼び掛ける看板やステッカーなどの表示設置が不十分な箇所があるため充実させたい。

事業名	反射鏡設置等事業
事業費	0円
事業概要	(実施内容) ー (実施時期) ー (参加人数) ー (成果) 申請事案がなかった。 (評価)ー (今後に向けて) 地域内の交通安全を守るために、次年度以降も危険個所に反射鏡等の設置をしていく。

事業名	自主防災活動参加促進
事業費	47, 004円
事業概要	(実施内容) 自主防災勉強会等開催。 山口県自主防災アドバイザー養成研修の受講により新たに認定自主防災士を養成する。 (実施時期) 令和6年4月～令和7年3月 (参加人数) 43名 (成果) 市認定防災組織・認定自治会等の増加に注力し、白石地区自主防災組織の構築に向けた支援を実施した。 自主防災士による防災講座を自治会(町内会)会長等を対象として実施した。 他地区からの講演依頼を受け、白石地区の「発災実動訓練」について講演を行った。 令和7年3月9日(日)に山口市と協働で「山口市防災実動訓練＋防災フェアin白石」が実施された。16自治会(昨年度14自治会)にて黄色いタスキ訓練を実施した。防災フェアでは子ども防災・マイマップづくり・食物アレルギーを考えた炊き出し等訓練を行い、防災意識向上の一助となった。 (評価) 認定自主防災士・市認定防災組織は増加しなかったが、他地区での講演、山口市と協働の実動訓練、実行委員会を定例開催(毎月1回)するなど充実した活動内容となった。 (今後に向けて) 単位自治会(町内会)を対象として、地区自主防災士による防災講座を開催する。 市認定防災組織認定自治会(町内会)、認定自主防災士の認定を支援する。

事業名	夏休み防災訓練キャンプ実施
事業費	59, 953円
事業概要	(実施内容) 土のう作り、着衣水泳、防災食作り、放水体験 (実施時期) 令和6年7月27日 (参加人数) 32人 (成果) 例年通り半日でのデイキャンプを実施した。 (評価) 今年初めて行った土のう作りは、普段の生活では教えてもらうことのない体験をする事で児童の興味を広げる事が出来た。 (今後に向けて) 今年度も参加児童数については、目標まで及ばなかったが、小学校の先生方も多数参加され、児童への活動を通じて、学校での関心も高くなっており、今年度は学校運営協議会の視察も併せて行われた。 来年度も、学校や地域と協議の上、参加児童への呼びかけ方法等を検討し、十分な暑熱対策を講じて引き続き事業を進めていく。

事業名	安全パトロール事業
事業費	29, 619円
事業概要	(実施内容) 児童の登下校の安全見守り、挨拶運動 ボランティアへの児童の下校時刻予定表や情報、連絡網等の送付。 (実施時期) 通年 (参加人数) 35人(登録ボランティア数) (成果) 児童の通学時における安全確保を目的に学校とボランティアの連携が図られた。 (評価) パトロール要員が昨年と同数となった。登録ボランティアの協力のおかげで児童の事件事故の被害事案はなかった。 (今後に向けて) より安心・安全な町づくりのために、地域の広報誌等を通じて、登録ボランティアの増員を図っていき、参加人員の確保・拡大をしていきたい。

(5)環境づくり

事業名	環境美化・保全活動推進
事業費	95, 450円
事業概要	(実施内容) 五十鈴川における草刈等清掃活動による環境美化・保全活動 (実施時期) 令和6年8月25日 (参加人数) 350名 (成果) 五十鈴川の美化・保全が図れた。 (評価) 白石小・中・PTA125名、附属小・中・PTA165名、センター地域づくり等10名、近隣の自治会等より50名が加わり、総勢350名の参加があった。熱中症等事故なく安全に作業を終えることができた。反省会・直会では、今後の実施に向けて、忌憚のない意見交換ができた。 (今後に向けて) 学校関係、近隣自治会等へ主旨説明を行い参加要請をして行き、早目の始動、実行委員会の集合時間の変更、草刈り機の充足と使用者の確認を行い、環境美化・保全活動の深化・拡大を目指す。

(6)地域個性創出

事業名	白石歴史探訪の会
事業費	361, 970円
事業概要	(実施内容) 講演会、広報誌およびHPにコラム掲載。講師(ガイド)による史跡巡りを実施。 (実施時期) 令和6年5月～令和6年11月 (参加人数) 講演会230人、史跡巡りウォーク・バスツアー52人(延べ人数) (成果) 今年度の講演会は、新たな講師を3名招いてすべて計画通りに実施し、参加者230名で昨年より41名増加した。史跡巡りは、予定通り2回実施し、参加者52名で昨年より10名増加した。 講演会・広報誌へのコラム掲載・史跡巡りにより、山口で行動・活躍した人物や史跡を詳しく周知することができた。「クイズ大会」は参加者96名で昨年より8名増加、全問正解者70名で昨年より31名増加、表彰者22名(延べ人数)を表彰し副賞を贈呈した。 「やまぐちえき応援イベント」協力は、参加者との交流を深めることができた。 (評価) 講演会・広報誌へのコラム掲載は好評であった。今年度は毛利愛好会代表と県文書館専門研究員を講師に招いて講演会を開催し、山口の歴史に触れることができた。講演会は6回、史跡巡りバスツアー・ウォークは2回開催し講師によるガイドの下、より深く知ることができた。 (今後に向けて) 新規講師の発掘によりタイムリーな講演内容とし、参加者の増員を目指すとともに、白石地域に愛着を持ってもらえる様、希望される講演会、史跡巡りを実施する。